

[Japan. J. Pharmacol., 34, 23 (1984)]

Effect of (±)-2-[p-(2-thenoyl) phenyl] propionic acid (suprofen) on experimental allergic reactions

FUSAYUKI YOKOYA*, TAMAKI NAKAYAMA*, KENJI SAKAMOTO*,
KAZUO OHHIRA*, YASUHIRO OHSHIKA*, YUKIO MORI**,
KAZUMI TOYOSHI**, HIROICHI NAGAI, AKIHIDE KODA

(±)-2-[p-(2-Thenoyl) phenyl] propionic acid (suprofen) の実験的アレルギー反応に及ぼす影響

横家房志*, 中山 環*, 坂本賢二*, 大平一夫*, 大鹿康弘*,
森幸雄**, 豊吉一美**, 永井博弐, 江田昭英

新しい抗炎症薬 suprofen のアレルギー反応および抗体産生に及ぼす影響を検討した。suprofen はラットの PCA, ラット腹腔 mast cells およびモルモット肺切片からの抗原による histamine 遊離, モルモットの Forssman cutaneous vasculitis および Arthus 反応を抑制した。suprofen の PCA 抑制効果は ketoprofen と同等, iluprofen や tranilast よりも強力であった。histamine 遊離抑制効果は tranilast よりも弱い。SRS-A 遊離抑制効果がみられた。Forssman cutaneous vasculitis 抑制効果は他の非ステロイド性抗炎症薬よりも強力であったが, Arthus 反応抑制作用はほぼ同等であった。一方, モルモットの遅延型過敏反応やラットの抗体産生には影響を及ぼさなかった。

* 大洋薬品 **放射化学教室

[Carcinogenesis, 5, 1443 (1984)]

Distribution, Metabolism and Excretion of N-Nitrosobis(2-hydroxypropyl)amine in Wistar Rats

YUKIO MORI, HIDEHISA TAKAHASHI, HIROSHI YAMAZAKI,
KAZUMI TOYOSHI, TAKAO MAKINO*, YOSHIHIKO YOKOSE*,
YOICHI KONISHI*

Wistarラットにおける N-ニトロソビス(2-ヒドロキシプロピル)アミンの分布, 代謝及び排泄

森 幸雄, 高橋秀久, 山崎浩史, 豊吉一美, 牧野剛緒*,
横瀬喜彦*, 小西陽一*

雄性ラットにおける発癌性 N-Nitrosobis(2-hydroxypropyl)amine (BHP) の生体内運命を検討した。3g/kg b. w. の発癌用量を腹腔内に注射すると, [1-¹⁴C] BHP の血中濃度は1時間以内に最大値に達した。投与1時間後においては血液及び肺, 肝, 甲状腺並びに腎等の標的臓器に比較的高濃度の ¹⁴C が認められたが, その放射活性の大部分は24時間後には各種臓器から消失した。そして, 投与 ¹⁴C 活性のほとんどは尿を經由して排泄された。すなわち, 90.8%が24時間以内に尿中に, 5.5%が糞中にそして3.2%が呼気中に排泄された。そして, HPLC 分析により, 尿中には BHP (投与量の78.1%) と4種の代謝産物 (11.5%) が検出された。これらの代謝産物に加えて, bis(2-oxopropyl)誘導体と2種未知代謝産物が投与3時間後の血液, 肺, 肝, 又は腎において検出された。

* 奈良県立医科大学・がんセンター腫瘍病理